

私の言葉は滅びない

マタイ 5 章 1-10
マタイ 24 章 32-35

31 月 18 日に起こりました東北関東大震災は私たちが経験したことのない大震災になりました。大地が揺れ動く恐ろしさが東北地方から関東一帯にいたるまで襲い掛かりました。教会員の皆様のことが心配で、電話をいたしましたが見つからないところがありました。大丈夫だという情報をいただいてよかったですとお思いました。

教会員の方のご兄弟の家族が被害地の石巻市におられて連絡がとれないと伺い祈りました。皆さんも祈りを依頼しました 5 日目に連絡がとれて全員無事だとうことを確認しました時は本当に安堵しました。ご家族の方々はどんなにホットされたことかと思えます。私のところにはたくさんの電話が問い合わせと各教会の状況が届いてきています。その一部を掲示板に張っておきましたのでご欄ください。

四国におられる当教会から牧師になられた岡野紀子先生から安否を問う電話が何度もあり、教会の皆さんは無事か、足りないものがあれば送る、とあるました。岐阜におられます当教会員の方からも電話があり、教会の皆様の安否を問うてきました。そして、なんでも送るから、という有り難い言葉を聞きました。

私たちが属しています教団の被災地の教会に電話しましたら、何とか大丈夫だが大変な状態である、と伺いました。

今回は大地震とともに大津波、そこへきて原発も被害を受けて人々の心はどんなに見えない恐怖につつまれたであろうかと思えます。

私たちは恐怖と痛みというものは自分が経験してはじめてのように分かるころがあります。特に心に受けた痛みというものはなかなか癒されることがなく、そのまま心が病んでしまうことさえあります。わたしたちは自分たちのように恐怖と痛みを経験したのではないのでしょうか。

わたしは、福島に仲間の教会がある、どうしているだろうかと思い電話をしてみますがなかなかつながらない、やっとながりました。放射能の風表のため物流が途中で帰って行ってしまうのだと伺いました。私は、奥様と子供さんを早く避難するように勧めました。しかし、奥様と子供さんたちは恐怖からくる悲しみのために父親の牧師と共にいる、と言って聞かないというのです。避難をするように説得しているのですがどうしても泣いていていやだ、というのです。私はそれではだめだ、教団は対策委員会を立て上げているが、その指示を待っていては遅くなる、だから、早く非難したほうがよい、と申しますと、では下瀬先生 妻に話して説得してくれますか、ということになって奥様と電話で話し説得しました。明るる日 朝早く車で奥様とお子様たちは実家に非難されたという連絡を受けました。

皆様も被災者と関わる痛みと苦しみの中に巻き込まれていかれたのではないかと思います。

テレビの映像は雪が降る中、焚き火で暖をとっておられる人々の姿、体育館の中でストーブもなく身体を横にしておられる方々が眠ることのできない辛さを映し出してその辛い大変な姿が直接に伝わってくる思いでした。その思いはわたしだけではなかったと思います。

何よりも、まだ安否が確認できない多くの方々のご家族の思いはいかばかりでしょう。仲間の牧師から電話がはいり、祈ってくれ、というのです。教会員の実家の家族が街の半分の安否が分からないという大変な地方にいるのだが連絡がとれないまま絶望的な方がいる、そういう中で自分は主の日に何を説教の言葉として語ることができるであろうか、と電話口で話しておりました。私も同じだ、と話しました。私は言葉を失ったまま金曜日の祈祷会の日に来られた皆さんとともに祈りの輪に加わりました。そこで、少しずつ支えられて、力が与えられて、土曜日の朝はみ言葉に向うことがで

きました。改めて共に祈るといふことの恵みを知りました。

しかし、

幸いなことに、被災地は昨日あたりから、復興のきざしが見えてきました。子供たちの笑顔が映像で映し出されるようになりました。春の選抜高等学校野球大会も開催されることになりました。

外国の首脳が、その国の大使館を訪れて記帳をして、励ましの言葉を述べているのを聞き涙がでました。

お隣の韓国で日本の女性に人気のある俳優が 7400 万円を義援金として送るといわれました。台湾ではチャリティを開いて 20 億円の義援金をおくる、フランスでは 1 万着の放射能に強い防御服と 2 万組の手袋と 3000 枚のマスクを送ると情報が流れてきています。それほどの未曾有の災害を体験し日本はどん底の苦しみの中に落ちました。しかし、全国にある教会はそのような中で神を見上げています。かつて 16 世紀にヨーロッパ全土でペストが大流行した時、その町のひとつが全員亡くなってしまふということがあちこちの町々で起こりました。その時、人々の中から生まれた言葉があります「メメントモリ・あなたの死を覚えよ」という言葉でした。いつ自分に訪れるかもしれない自分の死に思いを寄せたのです。その中で神を見上げて乗り切っていました。

私たちの教団ではありませんが、日本キリスト教団には約 1700 の教会があります。被災を受けた教会の状況がリストになってパソコンで見ることができます。北海道から被災地の教会と牧師と信徒の状況です。崩壊した教会はあります。また、宣教師が津波の力で腰まで引きずられながら、命を得た、と記されています。聖公会の教会の被害も大きいと言われていています。

実は、私は地震があった時、

二階で横になっている時に地震が起こりました。誰でもそうだと思いますが私も地震には敏感で恐怖に包まれてしまう性格なのです。地震が弱まることなく、なお激しく揺れだした時、死ぬと思いました。本棚から本が私の身体と顔に向かって飛び出してきた倒されて、その時、私の中から思いもよらない言葉がでたのです、「神様、教会の人々を守ってください」、自分でもびっくりしました。皆さんもご承知のように私は牧師として足りない、また牧師として十分といえる者ではありません。皆様にご心配と迷惑をかけ、愛のない牧師であると言うことはよく承知しています。その私の口から「神様、教会の人々を守ってください」と出たということは大変なことなのです。それは直ぐに分かりました。私は皆様にこの2年の間、辛い思いと心を痛めてしまうことをいたしました、その私を受け止めてくださり、なお 牧師として神の言葉を語る器として特に私の心が支えられるように祈ってくださって今日あるということをはがいつもわたしの頭の中にもありました。そのことが私の血となり肉となっていたからではないかと思えます。ですから「神様、教会の人々を守ってください」。と口からでたのではないかと思えます。

今朝、読みましたみ言葉は二つです、一つはマタイ福音書5章4節「悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる」。このみ言葉はイエスが多くの人々を前にしておそらく何回も何回も語られたであろう山上の説教の一節です。この言葉一つにイエスの説教とご生涯の全てがこめられている言葉ともいえる豊かな言葉です。このみ言葉を私は思い出しました。

瞬間的に思い出したものですから難しいことは通り越してわたしの心に浮かびました。地震と津波の恐怖に包まれて、家が流され、言葉もなく、悲しんでいる被災者とその家族、遠くにいる安否を問う知り合いの方々の中にある悲しみです。そして、日本中が悲しんでいるのです。悲しみの輪が広がり、悲しみの共有が起こっているの

す。その悲しみがイエスの口からでた「悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる」。というみ言葉によって恐怖の津波ではなく慰めの津波のように被害を受けた人々に、悲しみの中にある人々の上に豊かに注がれるようにと祈ったのです。

そして、実際、その慰めが具体的に明らかにされてきています。神に造られた人々の愛が結集し始めている。誰をも非難しないで、又誇ることもせず、自分たちの出来る力を寄せ合って被災者たちを慰めている。そのために働いている。道路を片付け、港を整理し、物を運び、ガソリンのタンクローリー者が列をつないで被災地に向っている。ボランティアも動きだしている。誰もが心配した原発に向って放水しています。誰も名もなき人々によってです。ここにイエスの語られた「悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる」。と言われたみ言葉が本当だなあという思いをいただいたのです。

もう一つのみ言葉はマタイ福音書 24 章 35 節「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」、このみ言葉です。厳粛なイエスのみ言葉です。天地は滅びるかもしれない、滅びないかも知れない、という曖昧な言葉ではありません。「天地は滅びる」という断言の言葉です。

ここで私たちは、なぜイエスが地上にまでいらして神である方が人とまでなられて、なぜ、わたしたちの罪を身代わって十字架で死んでくださったか、ということをよく知らねばならないと思います。それは、天地は滅びるからです。言葉を換えますと、私たちを支えている一切のものが滅びる、役にたたなくなる、無に帰するということがくる、ということです。そのことを聖書は、永遠の滅びと言っているのです。

今回の被災を通して改めて思いましたことは、人類の英知ということです。英知は私たちの文明を本当に豊かにしてくれました。必要がなかった携帯電話を持つようになりました。若者だけかと思いましたが年を召された方々、いや、持っていないほうが

めずらしくなりました。車は二台持つ家が増え、それもガソリンをたくさん使う車を業者は売りつけてきました。そして人間の英知は原発という巨大なエネルギーを獲得しました。便利になりました。しかし、その英知は一端ことが起こった時に治めるすべを知らないとすれば、それはどこか問題がある英知なのではないか、原発からでた放射性物質は処理できないので深く穴を掘って埋めたり、海底深くに沈めたりするだけで、何ら処理できないものであることはもう何十年も前から言われてきたことでした。私たちは、それともこの豊かさを保つためならば、一端事故が起こった時にはそのマイナスを引き受けようと覚悟を決めた英知なのでしょうか。解決できないものを作りあげて人間の豊かさを求め続けるということはやはり、英知が本当に問われたと思います。

何日も続く地震の余震の中で、イエスの語られたみ言葉を思い出していました。「**天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない**」、というイエス様のみ言葉です。イエスがご自分の死を前にして、弟子たちに語られた言葉です。天地は滅びる、こわい言葉です。天地という言葉で私たちが思いだしますのは、今、礼拝で共に読んでいます創世記の最初にでてきます言葉です。創世記の最初にでてきます言葉です。「**初めに、神は天地を創造された**」、という言葉です。神は一つ一つをご自分の言葉によって創造されていきました。そして、ここが大切です、その創造の最後に人間を丁寧に大切に創造されたということです。ここで大切な事は、すべての神の創造は人間の創造に向っての創造であったということです。イエスがここで「**天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない**」と言われた天地というのは神が創造された様々なものすべてを含むでしょうが、何よりもすべてのものを造られたあとに神が創造の冠として造られた私たち人間が滅びる、と言われたのです。

イエスはこの言葉を言われる前にいちじくの木 of 譬えを話されました。この譬えはの

んびり聴くことのできない内容の葉なしです。「いちじくの木から教を学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。それと同じように、あなたがたは、これらすべてのことを見たなら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい」。いちじくの木の実を自然現象を見たら誰でも分かるであろう、そう言うておられるのです。それはイエスが天地の滅びへの予言の言葉でした。このことは、別な言い方をすれば、滅びが近づいていることを知りなさい。あなた方が無に帰する日が近づいていることをしりなさい、それがいつであるか、どのようにしてかは分からないけれどもあなた方は滅びるのだ、そう言われたのです。

ここでイエスは私たちに脅かしておられるのでしょうか。あなた方は滅びるということをいつ起こるか知らない、と言って恐れで人々を包み込んでいるのでしょうか。それとも宗教というものがよくいうように私たちの人生がはかない、空しいということをおっしゃるのでしょうか。創世記は「初めに、神は天地を創造された」と書き始めます。神は何もないところからお始めになりました。そしてイエスは、その神のみ業が終わる時、再びすべては無に帰し滅びるのだ、と言われたのです。しかし、イエスはその時、その無に帰する私たちの滅びが滅びにならないで済む道がみ言葉において開かれていることを知りなさい、そう言われたのです。私たちが滅びないですむ道がある、私たちのすべてが無に帰することのない道がある、それが「わたしの言葉」と言われたのです。滅びることのない、無に帰することのない道、永遠の命への道です。

わたしたちが永遠の命に生きるということはどういうことでしょうか。それは、永遠の命そのものであるイエスにふれて、その言葉を聴いて生き、そして命を終える生き方、それが永遠の命に生きることです。

ここで、イエスが滅びを貫くようにして語られた「わたしの言葉」とは何でしょうか。

それは、イエスが語ってこられたひとつ一つの言葉です。どんな言葉でしょうか。神にあなたは造られている、神にあなたは愛されている、神のみ前に私たちは罪人だ、その罪人を救いわたしたちを神との正しい関係に導くために語れた言葉です。さらにイエスが、私の言葉と言われたのは、イエスの言葉が行動となって歩まれた歩みの最後に向かわれた十字架で明らかにされたお姿そのものが言葉でもあります。十字架において明らかにされたイエスのお姿とは何でしょうか。私たちの罪のためにイエスが身代わりになられたお姿です。しかし、ただ死んだだけではありません。三日目によみがえられました。そのことによって、それまでわたしたちは、悪の力、サタンの力が私たちを縛り付けて身動きが出来ないようにを私たちはされていました。どんなにあがいても永遠の滅びと無に帰する世界に引きずり込まれていくしかありませんでした。

その縄目で縛り付けて、私たちを滅びと無の世界に縛りつけている力、その、私たちを無の世界、滅びの世界、永遠に引きずり込もうとする縄目を切り、はがねのような厚い滅びの板を貫いてイエスはよみがえってくださいました。そして、私たちが滅びに向うことのない道を開いてくださいました。これがイエスが仰られた「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」。という言葉です。

今、私たちの日本は深い悲しみの中にあります。降り注ぐ悲しみの中で礼拝をささげております。しかし、その悲しみのふ降り注ぐ悲しみを貫いて、自分たちもやがては滅びる者たちだとよく知りながら、滅びに至らないで済む道が、イエスのみ言葉によって開かれていることをよく知りなさい、と言われたことを知りながら礼拝をささげているのです。

そのみ言葉に支えられてわたしたちは尊いいのちを失った方々を丁重に葬り、ご遺族の方々のために慰めを祈り、できるだけ愛の寄り添いをしていきましょう。そして、

なによりもわたしたちは一人でも多くの人々に「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と語り続けておられるイエスのみ言葉を語っていきましょう。そこに滅びないで慰めに包まれた死があることを伝えて参りましょう。

祈りましょう。

今 わたしたちはあなたのみ前におります。たくさんのいのちが失われました。また まだどのようになっているかも分からない、愛する者たちの安否を気づかっておられる方々の心はいかばかりかと思えます。どうか、その方々の上にあなたが特別な慰めと励ましと癒しを与えてください。そして、教会に生きる者たちが「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と言われたイエス様の慰めの言葉に生かされて、倒れくじけそうな方々を支え励まし寄り添っていくことができますように。

主イエス・キリストのみ名によってみ前に祈りをおささげいたします。

アーメン